

ひいばあちゃんとわたしの話

亀岡市立亀岡小学校二年 森 祐依奈

わたしのひいばあちゃんは、今も元気にしています。ひいばあちゃんは、せんそうのとき、たいへんなことを、たくさん経けんしました。ひいばあちゃんのお兄さんはせんそうにいて今だにかえってきていません。だから、ひいばあちゃんは、とてもかなしい思いをしています。

ひいばあちゃんはよく、「たべものがすくなくて、いつもおなかがすいていた。」と話してくれます。そんな時をもたべることが多かったそうです。いまは、おなかをくらうしてくれるし、ずっとたべていてもおいしかったと言っていました。

今、わたしの家には、畑があつて、そこでいもをうくっています。ひいばあちゃんと畑に行く、「たぐやんやわらじ」だったからいっぱいたべちゃ。「とよく言ってくれます。わたしは、ひいばあちゃんの話聞きながらいいわの大切さをかんじています。

せんそうは、人の生かつをわけてしまします。家ごとくやおともたちといっしょにわらったり、あそんだりできなくなるのが、かなしいことです。だから、もういどせんそうをおこさないようにしたいとひいばあちゃんもわたしも思っています。

ひいばあちゃんがわたしに教えてくれることは、せんそうのことをわすれないこと、そしていいわをみんなでまもることです。やわいを畑でそだてるたびに、ひいばあちゃんの話を通して出てくるせんそうの思い出が、いいわの思い出です。

今世かにはせんそうについていへくがあります。テレビで見つてもわくわく、かなしくなりました。いっすうの人たちはきつとせんそうなんかしたくなかったと思います。それなのに、いっすうせんそうがおいるのかふじびです。いどもは、ともたちとケンカしてもせんそうはしません。せんそうするのは、たいい大人と大人です。わたしは大人になつてもせんそうしないので、みんなと、なかよくくらうたいです。

いれからも、家ごとくやともたちといっしょに、なかよくわらうてくらせる、まい日を大切にしたいです。ひいばあちゃんといっしょに、そだてたやさいをたべて、「しあわせだね。」とわらうてすこつたことです。

わたしは、人を思いやる気もちをわすれず、へいわについてかんがえつづけたいです。そしてたくさんの方があんなしんじてへらせる、やさしいせかいになってほしいです。わたしも、ひいばあちゃんみたいにやさしくて、へいわを大切にする人になりたいです。